

ノルウェー科学技術大学との包括的研究協力協定締結

産総研とノルウェー科学技術大学（NTNU、トロンハイム市）は、9月28日、包括的研究協力協定に調印しました。NTNUはノルウェー王国の自然科学工学系の主要大学で、職員は約4千人、学生・院生は2万人を数え、ノルウェー産業科学技術研究所（SINTEF）と連携し、科学・産業技術分野の研究を牽引しています。ノルウェーは石油・天然ガスを産出するほか、シリコンの生産も多く、エネルギー関連の科学技術において、NTNUは産総研の複数の研究ユニットと協力しています。また、バイオテクノロジーやナノテクノロジー等にも意欲的に取り組んでいることから、さらに幅広く研究協力



協定に調印し、握手する吉川理事長と Digernes NTNU 学長



セミナーを聴講する吉川理事長。右から、Hafskjold NTNU 教授、Digernes NTNU 学長、吉川理事長、Steinsmo SINTEF 総裁

が行われ、個別の協力協定等を締結することが予想されます。このような背景から、包括的研究協力協定の締結に両機関が合意しました。

吉川理事長によるノルウェーにおける諸講演とともに、NTNU、SINTEFと産総研の三者による研究協力の推進を目的とするセミナーが9月27～28日に開催され、産総研からは、エネルギー技術研究部門、ライフサイクルアセスメント研究センター、ナノテクノロジー研究部門、セルエンジニアリング研究部門の各ユニット長が参加しました。セミナーの機会に、産総研吉川理事長とNTNUのTorbjørn Digernes学長により、包括的研究協力協定の署名が行われました。

工業標準化業務で経済産業大臣表彰を受賞

平成18年度標準化と品質管理全国大会において10月13日、小野 晃理事が工業標準化業務で経済産業大臣表彰を受賞しました。

小野理事は、昭和49年当時の計量研究所に入所以来、熱学計測を中心に計量関係の研究業務に従事、その後計量研究所の要職を歴任、国内外の計量関係業務に携わり、独立行政法人化と同時に計測標準研究部門長に就任、その後、研究コーディネーター、現職にいたるまで、我が国の計量標準の先導役として尽力してきました。

特に、海外においてナノテク技術に関する産業応用に不可欠な標準整備の動きがあり、我が国においても「ISO/TC229（ナノテクノロジー）国内委員会」が平成17年度に設立されましたが、小野理事の同委員長としての貢献が高く評価されたものです。

また、平成5年から知的基盤研究特別委員会の委員として参画し、現在産総研工業標準部で実施している「標準基盤研

究」の基礎を確立しました。さらに、「知的基盤整備部会」、「適合性評価部会」、「IEC専門委員会」、「途上国基準認証協力WG」、「JISマーク制度専門委員会」の委員長並びに委員として貢献してきました。

本年は、1906年に電気・電子分野の国際標準化機関であるIEC（国際電気標準会議）が設立されてから100周年に当たり、我が国にとっても、国際標準化活動に参画して100年になる節目の年でもあり、今後更なる活躍が期待されています。



「2006年グッドデザイン賞」エコロジーデザイン賞を受賞

自然の叡智を具現した竹外装の赤外光音声情報端末に高い評価

情報技術研究部門ユビキタスインターフェースグループの開発した無電源空間光情報通信端末「アイミュレットLA」が、「2006年グッドデザイン賞」の特別賞「エコロジーデザイン賞（経済産業大臣賞）」に選出され、10月25日にホテルイースト21東京において授賞式が行なわれました。

グッドデザイン賞は本年度で創設50周年を迎えた財団法人日本産業デザイン振興会がデザインがすぐれた物事に贈る賞で、2006年度のグッドデザイン賞は4つのカテゴリーについて73名の審査委員による審査の結果1,034件の受賞が決定しており、エコロジーデザイン賞は、グッドデザイン賞のすべての受賞作品の中で、地球環境や資源の有効活用に配慮し、または自然景観、都市景観、生活環境との調和を実現した商品および施設等のうち特に優れていると認められるものに授与される賞です。「アイミュレットLA」は、無電池という環境性に加え、光を利用した活用性、用途の汎用性を備えた新しいコミュニケーションデバイスとして、竹を利用したことで社会環境への配慮があり、デザイン性が高いこと等が評価されての受賞となりました。産総研の



アイミュレットLA



グッドデザイン賞受賞はギネスブック公認のアザラシ型ロボット「パロ」に続き2回目で、グッドデザイン賞特別賞（経済産業大臣賞）は初の受賞となります。

アイミュレットは産総研が開発してきた、太陽電池とイヤホンスピーカで構成される小型、軽量で、無電源で動作することを特長とする情報通信端末です。産総研はこのアイミュレットを、2200万人を越える来場者を集めた愛・地球博（2005年日本国際博覧会）のマルチメディアアートイベントのために「自然の叡智」をテーマとして、自然素材である竹を材料とする筐体、新型の微小球状太陽電池Sphelar (R)などを採用して新たにデザインしたもので、LAはアートイベントのコンセプトデザイナーであるローリー・アンダーソンさんに由来するものです。

この受賞は、“最先端科学技術と芸術が融合した研究成果が製品として世に出る”という、産総研が推進している本格研究の成果の一つとして位置づけられるものです。

アイミュレットLAは産総研認定ベンチャー（有）サイバーアシスト・ワン（<http://www.caone.co.jp>）を通して販売されます。また、産総研つくばセンターの展示施設「サイエンススクエア」などで体験することもできます。



開発を担当したユビキタスインターフェースグループ 伊藤氏（右）とデザイナーの山中氏（左）